

IoT、病院や大浴場も

京西テクノスが機器遠隔監視

た。同社は医療や計測、通信、環境分野で細やかな保守サービスを展開。実務を知り尽くす保守サービス企業が仕掛けるIoT(モノのインターネット)事業が、顧客にさまざまなメリットをもたらす。(西東京・松崎裕)

京西テクノス(東京都多摩市、臼井努社長、042・303・0888)は、リモート遠隔監視サービス「Wi-VIS(ワイビス)」の普及を目指す。外資系の大手医療機器メーカーをはじめ、多分野で活用が広がってき



ワイビスは、無線通信でリモート監視とコー(PET)、磁気共鳴断層撮影装置(MRI)などを使い監視信号の発信器ルセンター業務などを担層撮影装置(MRI)など受信機により電子機器当する総勢80人体制で、と受信機により電子機器当する総勢80人体制で、などを遠隔監視する。24サービスエリア網を全国時間365日監視し、機に広げる。

外資系の大手医療機器メーカーには、まず1年以内に全国15病院に、コンピュータ断層撮影装置(CT)や陽電子放射断層撮影検査(CT)や陽電子放射断層撮影検査(CT)の異常を示す反応をいち早く検知。メーカーと病院に状況をエスカラーションし、トラブルを食い止める稼働に影響を与えなかつた。

機器の操作室内に組み込まれたセンサーボックスが24時間365日体制で状態を監視する。配電盤の電流と電圧、チャラーの水量と水温、水圧、室内の温度と湿度も計測することでCTの運用を取り巻く環境を丸ごと監視する。

保守の知見生かし納入拡大

と監視する。京西テクノスの故障を防ぎ、設備の稼働率を高める。当初の想の強みを、メーカーが対応以外のサービスにワイビスが広がっている。

京西テクノスは2年以内、外資系の大手医療機器メーカーの国内病院における監視システムの導入を終わらせ、3年以上に海外展開を始める。2021年9月期に同社に付加価値を与える」とIoTの売上高を約20億円にする目標を掲げる。

導入は特定分野に限らない。監視装置には電圧野は新規参入であることや温度、振動など20項目、課題であるセンサー以上のデータを取得できる設置工事や付随する多様な技術スキルを持つエンジニアの教育に力を入れている。同社の山澤泰史取締役システムサービス本部長は「実績を積み上げ、蓄積したノウハウを会社の財産にしていく」とし、IoTを使った総合的な保守サービスの質向上を目指す。